

【 演習A 】

想定場面での対応①

演習A及びBの進め方

1. 演習A、Bではロールプレイを行う

- ロールプレイをするために、班内でさらに小グループに分かれるが、参加者が必ず、3つの役割すべてを経験できるように、グループの編成は6人か7人に設定するのが望ましい

◆7人の班 3人組と4人組に分かれる

◆6人の班 3人組が2つ

演習A及びBの進め方

2. ロールプレイの流れは以下のとおり

- ロールプレイの1回の時間の長さは、目安なので研修全体の時間枠に余裕があれば調整してかまわない
- 運営する講師がタイムキーパーをして、「始め、やめ」の合図に合わせて、すべてのグループが同時にロールプレイできるように進める
- PPTの資料の解説部分は受講者には事前に配布せず全体のまとめの時に活用する
- ロールプレイ終了後、大きな班にもどり、互いの所感を話し合う
- 講師が全体のまとめをする前に、2～3班くらいから発表してもらう

～ 自 己 紹 介 ～

- ・ 名 前
- ・ 所 属
- ・ 参加のきっかけ

演習A: 想定場面での対応

1. 3つの役割を決める
2. 利用者役、支援者役は指定された想定場面についての
ロールプレイを行う。
3. 終了後、3役ともそれぞれの立場から感想を述べる
4. 役割をチェンジして行う。3つの役割すべてを行う

3人の場合

	1回目	2回目	3回目
A	支援者	利用者	観察者
B	利用者	観察者	支援者
C	観察者	支援者	利用者

4人の場合

		1回目	2回目	3回目
Aチーム	A	支援者	利用者	観察者 Bチームを 観察
	B	利用者	支援者	
Bチーム	C	観察者 Aチームを 観察	支援者	利用者
	D		利用者	支援者

演習の上での注意

- 事例では「Dさん」だが、受講者本人の名前に置き換えて行う
- 観察役はロールプレイの中に入り込まず、脇で静かに様子を観察する
(脇でうなずいたり、笑ったりの反応をして2人の気を散らさない)
- 観察役も重要。日頃の実践で自分を客観視する視点を理解する

居宅介護を利用しているDさん宅にて・・・場面1

Dさんは40代の女性、双極性障害です。
私は週2回、掃除と食事作りのために訪問
しています。



場面1：ある日

「いままでありがとうございました。来週からはもう来てもらわなくていいです……。もういろいろ疲れちゃいました……。死にたくなりました」と、

自殺をほのめかすことを言われ、とても驚いてしまいました

演習Aのまとめ

態度としては・・・

- ☐ 驚かず、話に耳を傾ける
- ☐ 説得しようとせず、辛い気持ちに共感する

無言でうなづく・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・傾聴
「つらいのですね」「しんどそうですね」・・・・・・・・・・共感



「えっ？そんなこと言わないで下さいよ！」・・・・・・・・否定
「親を悲しませることになりますからダメですよ」・説得
「大丈夫ですよ、美味しいものでも食べて！」・・・話をそらす

演習Aのまとめ

行動としては・・・

- まずは死なない約束をする。約束してくれない時は、次回会う時までの有期限の約束をする
- 直ぐ主治医や家族に連絡する。入院が必要な場合もある
- 口止めされても「重要なことは必ず報告することが規則なんです」と毅然と断る

「死なないって約束してくださいね」

「明日また伺いますから、またお会いできること約束してくださいね(その時またお顔を見せてくださいね)」

「次回、またお話ししましょうね」

過去に本人と共有した話題を出し、「私には今ここに繋がりが
ある人がいる」という実感を持ってもらう